

# #アンプ de GO!!

with

# Marshall

第9回

season2

王道アンプ・ブランドのマーシャルと共に“アンプでギターを鳴らす大切さ”を様々な角度からみなさんにお伝える連載企画として毎月お届けしている『アンプ de GO!!』。今回は、デビュー当時からマーシャル製アンプを愛用し続けているストレイトナーのホリエアツシに話を聞いていこう。彼が抱えているマーシャルに対する想いや現在のメイン・アンプについて知ることで、アナタもきっとスタジオ等でアンプを鳴らしたくなるハズ!!

製品のお問合わせ先 / ヤマハミュージックジャパン [http://www.marshallamps.jp]

## ホリエアツシ [STRAIGHTENER]



自分が背負うアンプの音こそが正解だと信じている

——まず最初に、マーシャルというブランドにはどのようなイメージを抱えていますか？

ホリエ：UKロック・フリークとしては、イギリス産というだけでも信頼できます。ライブハウスにもスタジオにも必ず1台は置いてある、ギター・アンプのグローバル・スタンダードというイメージですね。

——では、そんなマーシャルを一番最初に鳴らしたときは、どんな体験だったのでしょうか？

ホリエ：最初はリハーサル・スタジオにあったJCM900を鳴らしました。エフェクターなしのアンプ直で、ボリュームとゲインのツマミだけで僕の理想の歪みを作れたので、もうこれだけあればいいなって思いました。

——なるほど。その後デビューをされてからはしばらくJCM800を使用されていたよね。

ホリエ：はい。お下がりで手に入れたそのJCM800は、おそらく前の持ち主の好みによってか、かなりパワーがあって重厚な音が鳴っていました。当時2人編成でベースレスだった

ストレイトナーのサウンドにとってはもってこいのアンプでしたね。対バン相手からも度々「音デカイね」と言われました。

——現在はASTORIAを使用されていますが、どのようなアンプだと感じていますか？

ホリエ：以前はクリーン用と歪み用でアンプを2台使いしていたんですが、アストリアを手に入れてから、ギターごとの特質を明確に表現できる万能性に感動して、今はこれ1台しか使っていません。エッジ感、レンジ感共にドストライクです。

——最後に読者へ向けて、アンプを鳴らす大切さについてアドバイスを！

ホリエ：やっぱり自分が鳴らす音を自分の耳で、アンプから出るリアルな空気の振動を体感したいですよね。レコーディングでマイクで拾った音は、ボリュームによって聴感上よりも歪んでしまっていたりするけど、ライブのステージ上では自分が背負うアンプの音こそが正解だと信じています。



## Marshall ASTORIA CUSTOM

◀▼インタビューでも語られている通り、デビュー以降はマーシャル製JCM800を歪み用、ローランド製ジャズコーラスや13製LDW 17/39等をクリーン用アンプとしてセッティングするアンプ2台体制を取っていたホリエ。しかし、2016年にアストリア・カスタムを導入してから次第にアンプ1台体制へと移行していった。導入当時のホリエ曰く「アンプの歪みだけで気持ちいいところまで持っているものが頭にあって上で試奏したら、すごい好みのクリーンと、すごく好みの歪みの両方が出せた」とのこと。現在は、クリーン/クランチ・トーンを基本にしながら、ブーストONでドライブさせるようなセッティングにしており、エフェクターと併用することで、SGのハムバッカー・サウンドからテレキャスターやストラト等のシングル・コイル・サウンドまで1台で創り出せるシステムを構築している。

### Setting

